第 18 回高校化学グランドコンテスト ポスター発表講評

笹森 貴裕（筑波大学数理物質系化学域教授）：それぞれ、見せ方を意識した工夫をしていたように思いますが、逆に工夫しすぎて見えにくかったものもありました。緊張しながらも、元気に楽しく話をする生徒さんが多くみられました。

佐藤 香枝（日本女子大学理学部物質生物科学科教授）：地域の関わりのある研究テーマ、身近なものに注目したテーマなど、とても楽しく拝見させていただきました。質疑応答を通じて、さらに研究が深まることを期待します。ポスター発表の場合、集まっている人たち全員にポスターが見えるように、立ち位置に気をつけて発表すると良いと思います。

松坂 裕之（大阪公立大学理学部化学科教授）：時間が限られていたため、発表を聴くことができたのは合計で 10 数件でしたが、いずれも各自のとりくんできた研究内容を熱く語っていただき、うれしく思いました。ポスターと口頭による説明のいずれも、わかりやすく伝えるための努力が感じられました。なお、研究結果を報告する際には、「どこまでが既知の事実であり、どこが今回新たに得られた知見であるのか」を明確にすることが必須となります。また、「なぜこの物質を用いたのか」、「なぜこの条件下で実験したのか」という点についても、簡潔かつ明瞭に提示することを意識していただければ幸いです。

山田 鉄兵（東京大学理学部化学科教授）：件数が多く、そのうち一部しか聞くことが出来ませんでしたが、とても楽しい発表ばかりでした。電極酸化して酸化グラフェンを作るものなど、ドキッとするような研究テーマもありました。是非この楽しさを高校に持ち帰り、素晴らしい研究を続けていって欲しいと思います。気持ちは良くわかるのですが、聴衆がいても発表者同士が雑談をしたり、1 人のときにそわそわしている生徒がいました。聴衆がいなくても 1 人で真っ直ぐ立っている生徒や、発表の時間の間集中した生徒に好印象を得ました。

今林 慎一郎（芝浦工業大学工学部応用化学科教授）：審査した発表では、皆さん研究内容をよく説明できていました。ただ、審査員は複数の発表を審査するので、概要を 5 分程度で発表し、質問されたことについて補足して説明する方法も考えてください。また、研究の新規性についてきちんと説明することも考えてください。先輩から受け継いでいる研究でも、開始あるいは現時点でのオリジナリティーや研究展開の独自性などを説明するとさらに素晴らしい発表になると思います。

北川 理（芝浦工業大学工学部応用化学科教授）：生徒さんの研究に対する熱意や懸命さが伝わって来ました。ポスターの作成にもそれぞれ工夫が見られ、また、専門的な質問に対しても、大学４年生以上と思われる（？）説明・応答を行なっていた高校もあり、感心致しました。一方で、先行研究に対する説明（引用）があまり言及されていない点が気になりましたので、今後は改善すべきものと思われます。

中村 朝夫（芝浦工業大学名誉教授）：実際にポスターの前で発表を聞き、ディスカッションをしてみると、どんなきっかけで研究を始めたのかということや、皆さんが本当によく考えながら実験を進めていること、実験結果の意味することを自分の言葉でよく理解していることなど、よくわかりました。研究概要（要旨）の書き方をもう少し工夫すると、研究の面白さや価値をもっと理解し、もっと評価してもらえるのではないかと思います。これからもさらに研究を続け、好奇心あふれる後輩に引き継いでいってください。

永 直文（芝浦工業大学工学部応用化学科教授）：いろいろなテーマに高校生のユニークな視点から取り組まれていることに感銘を受けました。「グラコン」での発表は、生徒のみなさんが主体となってテーマを設定し、協力していろいろと実験した結果を自分たちでまとめるという一連の「研究活動」を経験できることが最大の魅力かと思います。これからも日頃の活動の中で面白いことを見つけたり出来たら良いなと思うことを考えたりし、それを解明＆可能にする研究を続けて下さい。そして、来年も新しい研究成果の発表の場として是非「グラコン」にご参加ください。

堀 顕子（事務局，芝浦工業大学工学部応用化学科教授）：PP-01～PP-32 の会場照明が暗く、また人が多く、暑い中での発表となりましたこと事務局よりお詫びします。皆さんの熱意や工夫した発表について多くの方より驚きと称賛をいただいております。一方で、他の資料やデバイスよりもポスター内での創意工夫、先行研究の把握と敬意をもつ姿勢、結果の比較や位置付けの明示を求めるコメントもいただいております。審査員や聴講者より当日得た質問やコメントとともに、上記のご意見もぜひ今後の研究活動にお役立てください。ありがとうございました。